

SALVATORE FERRAGAMO

独立を守る誇り高き一族

リボンが目印の「ヴァラ」の靴が一世を風靡し、私たちにも親しみがあるサルヴァトーレ フェラガモ。創始者は当時、靴のデザインにおいて歴史を変えたといっても過言ではありません。数々の女優たちに愛され、育まれ、その独創的なアイデンティティはファミリーに引き継がれ、今もなお、息づいています。

撮影/平部政宏(人物)、松本正志(静物) ヘア・メイク/野田智子 スタイリスト/橋本早苗 取材・構成/柳武麻実 デザイン/ファブ

靴からの物語

中野香織

進化するブランドSTORY

空前ともいえる靴ブームの到来である。プラットフォームにウェッジ、ハイヒールにバレリーナ、ビジューサンダルにグラデーション……とありとあらゆるタイプの靴デザインが氾濫する。

とりわけ過熱するのがプラットフォームや変形ウェッジなどヒールのデザインだが、今回、フェラガモの80年分のアーカイブを見て驚いた。全部、いまのトレンドではないか。

エジプト考古学から発想した、ピラミッド形ヒール。ジュディ・ガーランドのためにつくられた、マルチカラーのプラットフォーム。日本のはきものにヒントを得た、サンダルの中履きを替えられる「キモ(KIMO)」(キモノからの命名?)。鳥かご形のケージ・ヒール。上部が透明ビニールの「見えないサンダル」。大戦中の物資不足のなかで考案された、コルクのウェッジ。350以上もの特許をとったサルヴァトーレ・フェラガモの発明(デザインというより、まさに発明)は、今なお突き抜けた最先端感覚を放つ。

斬新な形なのに履き心地がよいのは、足の骨格やかかる重心の位置を徹底的に研究した成果。基本をがっちり押さえたオブジェのような靴は、スクリーンの内外で数多くのスターに愛されてきた。2006年には映画産業への貢献が認められ、「ウォーク・オブ・スタイル」賞を受賞している。

スポーティな履き心地と優雅さの両立は、かの「ヴァラ」で私たちににもおなじみ。金のプレートとクログラン(厚地うね織)のリボンというヴァラのモチーフをそのままに、今シーズンはプラットフォームの「ヴァリナ」が鮮やかな色で展開される。不滅のアイコン「ヴァラ」を考案したのは、サルヴァトーレの長女フィアンマ。サルヴァトーレの死後、妻ワンダと三男三女がそれぞれウェア、アクセサリー部門など社内的重要なポストにつき、経営手腕をふるう。家長の偉大な遺産をさらに大きく発展させ続けるファミリーの結束力に、このイタリアンブランドの、基本をがっちり押さえる底力を見る思い。

創始者のサルヴァトーレ・フェラガモは、イタリア南部で1898年に誕生。11歳で靴職人の見習いになり、1914年に渡米。後にカリフォルニア大学で人体解剖学を学ぶ。映画スターたちのオーダーメイドの靴を手がけ、高品質、独創的なデザイン、足にフィットする靴で名声を得る。27年に故郷のイタリアに戻り、グレッタ・ガルド、マリリン・モンローや世界のセレブリティのための謎え靴を製作。革が入手困難だった時代には、コルクやセロファンでユニークな靴を生み出し、「見えないサンダル」など独自のスタイルを確立した。40年にワンダ夫人と結婚し、6人の子供を授かる。60年死後もブランドの威信、名声はそのままに、事業の拡張と発展は夫人と6人の子供とともに、現在孫たちにも引き継がれている。78年には有名な「ヴァラ」を開発し、90年に「ガンチーニ」付きのトップハンドルバッグが誕生。靴をはじめ、ウェア、バッグ、スカーフ、アイウェア、時計、香水までを展開。今年創立80周年を迎える。

中野香織

服飾史家、コラムニスト。東京大学文学部および教養学部を卒業。ケンブリッジ大学客員研究員も経歴。今春より明治大学の教壇に。

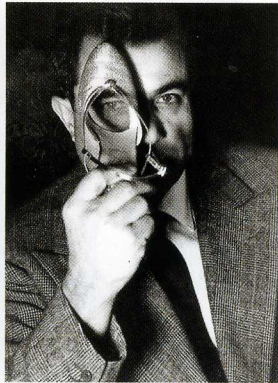
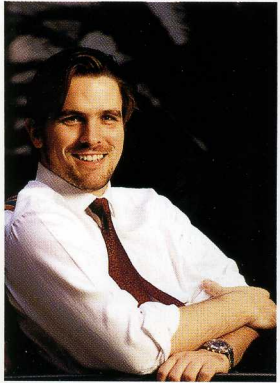


不滅のアイコン

ブランドの顔である「ガンチーニ」は、70年代にバッグに用いられ、80年代にアイコンとして認知。次第に数多くのアイテムにも使われるように。ウィッカーにカーフレザーがあしらわれたカゴバッグ(H19×W38×D10cm) ¥324,450 ※3月中旬発売予定 ロングセラーの「ヴァラ」は78年に誕生以来、100万足以上が売れ、最大のヒット商品に。その「ヴァラ」に手を加え、バレエシューズに仕上げたのが新顔の「ヴァリナ」。靴(1cmヒール)各¥66,150(すべてサルヴァトーレ フェラガモ/フェラガモ・ジャパン)



©Photo Locchi Historical Archive



〈上〉マリリン・モンローが愛用した、スワロフスキーのラインストーンが敷き詰められたパンプス。1959・'60年製作。'99年のオークションで競り落としたもの。11cmのステイレットヒールを好んだそう。〈中〉代表作のひとつ、透明な雲母の靴底から覗く、1955年のサルヴァトーレ・フェラガモ。〈左〉創始者サルヴァトーレの孫のジェームス・フェラガモは71年生まれ。NYのサクセス・フィフス・アベニュー、ゴールドマン・サクセスを経て、現在はフェラガモグループのレディースのレザーグッズの責任者を務める。双子の兄とともに、一族の第3世代の中でも最初に入社。